

東北学院大学アジア流域文化研究所公開シンポジウム

古代倭国北縁の軋轢と交流

栗原市入の沢遺跡で何が起きたか

平成27年9月21(月)～22日(火)

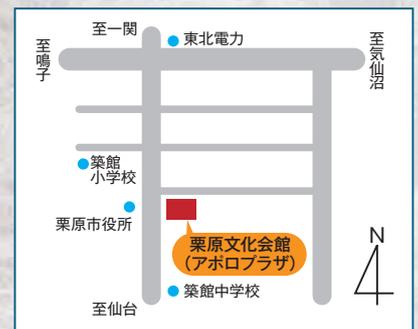
栗原文化会館(アポロプラザ)

主催 東北学院大学アジア流域文化研究所
『新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト』
(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)

協力 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会
後援 宮城県考古学会

入場無料・申込不要

大和王権が日本列島で最初の広域
支配体制を広げる4世紀の頃。
大和と同じ暮らし方をする人々が
北のはずれに深い壕と材木塀で防
御を固めた大きなムラを作った。
しかし、ムラは火事に遭い放棄さ
れた。
大切な鏡や装身具、鉄製品までも
が遺跡に残された。
栗原市入の沢遺跡でいったい何が
起きたのだろうか。



お問い合わせ先：東北学院大学アジア流域文化研究所
TEL・FAX022-264-6370
E-mail：ryuiki@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
URL：http://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/~hicarb/

溝と集落域の高低差

趣 旨

日本列島では、3世紀中頃に前方後円墳が出現し、4世紀のうちに南は九州志布志湾沿岸、北は宮城県北部まで広く分布するようになります。前方後円墳は大和王権によって作り出されたもので、全国に急速に広がる理由は、大和王権と地方の勢力が政治的に結びつきその証として大和王権が地方の勢力に前方後円墳の築造を求めたからだと考えられています。つまり、前方後円墳の分布は日本列島で初めての広域を支配する政治的連合体の出現と広がりを示すのです。

東北地方でも4世紀に宮城県北部まで古墳が築造され、大和などと同じ生活の仕方をした集落が確認されています。つまり、宮城県北部にまで、大和王権に連なる勢力がいたのです。大和に連なる勢力はこれまで比較的順調に広がったと考えられてきました。しかし、平成26年に宮城県栗原市入の沢遺跡が発掘調査され、まったく新しい事実が判明しました。入の沢遺跡は大溝と柵木で防御された大規模な集落です。調査が進むと、竪穴住居は火災で焼失していることが判明し、小型銅鏡、装身具など通常の集落では出土しない貴重な遺物が次々に発見されました。

入の沢遺跡の調査成果はこれまでの常識を覆し、新たな東北古代史の理解を必要とすることを示しています。本シンポジウムでは調査成果をもとに入の沢遺跡でいったい何が起きていたのかを明らかにし、古代東北の新たな歴史像を求めて、出土遺物、東北北部の縄文文化などの観点で発表、討論を行います。

日 程

第1日

10時開会

主催者挨拶 東北学院大学アジア流域文化研究所長 谷口 満

10時05分

シンポジウム趣旨説明 辻 秀人

10時15分

入の沢遺跡の調査成果

村上 裕次(宮城県教育庁文化財保護課)

11時15分

銅鏡からみた入の沢遺跡と東北の古墳時代

森下 章司(大手前大学)

12時

昼食
(入の沢遺跡出土遺物解説会 宮城県文化財保護課)

13時30分

玉類の流通からみた古墳時代前期の東北地方

—入の沢遺跡出土の玉類を中心に—
大賀 克彦(奈良女子大学)

14時15分

古墳時代前期の倭国北縁の社会

—宮城県北部の様相—
高橋 誠明(大崎市教育委員会)

休憩(15分)

15時15分

「入の沢遺跡」の頃の東北北部社会

八木 光則(蝦夷研究会)

16時終了

第2日

10時

東北地方の古墳時代の始まり

辻 秀人(東北学院大学)

10時45分

ヤマト王権の動向と東北の古墳時代社会

和田 晴吾(立命館大学名誉教授)

11時30分

昼食
伊治城跡出土前期土師器展示(栗原市教育委員会所有)

13時～15時

討論 入の沢遺跡で何がおきたのか

- 1、入の沢遺跡の調査成果 火災住居、濠、柵木、土器様相
- 2、鏡、装身具出土の意味
- 3、入の沢遺跡の評価
- 4、入の沢遺跡が語る歴史状況

司会 辻 秀人